

# 新基地建設反対名護共同センターニュース

## コロナ禍の困窮世帯に10万円、事業者に20万円給付



### 市長給与50%カット、高校まで医療費無料を

4月25日投票のうるま市長選挙に立候補を表明している新人で「オール沖縄」勢力が推薦するテルヤ寛之氏(68)は27日、同市内で政策を発表しました。

テルヤ氏は、新型コロナウイルスから「市民の命とくらしを守る」と強調、PCR検査や医療機関への支援策を図り、コロナ禍での困窮世帯などに10万円、事業者へ20万円の給付金を約束しました。市長給与を4年間50%カット、高校までの医療費無料化も公約。市政活性化に向け商業・文化施設誘致や観光振興、闘牛博物館の施策など公約を掲げました。市長選は前市議の仲村正人氏(自・公など推薦)と一騎打ちの公算。同日の市議補選には「オール沖縄」からテルヤ千江美氏が立候補予定です。会見には「新しいうるま市をつくる会」の照屋大河、山内末子両共同代表が同席しました。

「市政を刷新し、市民の命とくらしを守る決意」  
うるま市長選予定候補・テルヤ氏が政策発表

### テルヤ寛之氏の略歴

1952年具志川市(現うるま市)生まれ。琉球大卒、2006年沖縄国際大学教授、同大学副学長など歴任。研究分野は行政学、政治学、都市政策論



## 名護市長選 岸本氏出馬へ

来年1月予定の名護市長選挙に市議の岸本洋平氏(48=写真)が出馬する意向を固めたことを地元紙(3/26)が報道しました。



沖縄タイムスによると岸本氏は「市政を立て直したい。要請を受けとめ、前向きにやっていく」と述べ、辺野古新基地について「市民投票、県民投票などで反対の民意は明確」とし「名護・やんばるの潜在力を引き出して市民生活を豊かにしていきたい」と話しました。

岸本氏は、1972年生まれ。故・岸本建男元名護市長の長男。2006年の市議選でトップ当選し、現在4期目。県内保守中道系議員でつくる「新しい風・にぬふあぶし(北極星)」の副幹事長を務めています。現職の渡具知武豊市長は再選をめざして立候補する見通しです。

うるま市長選で勝利し総選挙につなげ  
名護市長選で「オール沖縄」が奪還を！  
県統一連の瀬和男事務局長がゲート前で26日、「今朝の新聞が来年の名護市長選で岸本洋平さんが出馬を固めた」と報道した。早い段階での候補者決定は大歓迎です。当面のうるま市長選と総選挙で「オール沖縄」候補を勝利させ、その勢いで来年の名護市長選で市政を奪還しましょう」と訴えると、30人余の参加者は大きな拍手で応えました。



「お互い、うちなんちゅ。密を避けながら抗議を続けましょう」と訴える瀬長氏(右端後ろ向き)

## 国会議員「遺骨混じりの土砂とんでもない」



具志堅さん(左端)の案内で鉾山を視察する沖縄等米軍基地問題懇談会の近藤昭一会長(その右)など国会議員ら。右手前は赤嶺政賢衆院議員。(写真提供・しんぶん赤旗)

野党の超党派の国会議員でつくる「沖縄等米軍基地問題懇談会」の近藤昭一会長(衆院議員)など6人は28日、沖縄戦の激戦地だった糸満市米須の鉾山を視察しました。沖縄戦遺骨収集ボランティア「ガマフヤー」の具志堅隆松代表が案内しました。具志堅さんは「この地域にまだ遺骨が残されている。業者が遺骨と石を見分けることは困難」と指摘しました。近藤氏は「遺骨交じりの土砂を埋め立てに使うならとんでもない。国会で取り上げていきたい」と話しました。赤嶺政賢衆院議員も同行しました。



### 辺野古側のかさ上げ開始

沖縄防衛局は29日、辺野古新基地建設で辺野古側の埋立区域(約6.5ha)で海面から4mの高さまでのかさ上げ工事を開始しました。へり基地反対協の仲本興真事務局長は「民意を無視し、しかもコロナ禍の中で税金を湯水のように使い、違法工事を強行することは断じて許せない。怒り心頭です」と話しています。(略図は琉球新報3/30より)